

島根県立
古代出雲歴史博物館
NEWS

2014.OCT vol.32



秋号



修験の聖地
出雲国 浮浪山
鱈淵寺

平成26年10月10日(金) - 11月24日(月)

新発見、初公開、数十年ぶりの公開多数

CONTENTS

- 2・3 (特集) 企画展「修験の聖地 出雲国 浮浪山鱈淵寺」
- 4 展覧会通信 特集展「尾道松江線発掘物語」／企画展「入り海の記憶」
- 5 れきはく通信／学芸員通信
- 6 まいぶんセンター通信
- 7 古代セン通信
- 8 れきはくごよみ／お知らせ

企画展

「修験の聖地 出雲国 浮浪山鰐淵寺」

開催期間 平成26年10月10日(金)～11月24日(月) 休館日 10月21日(火)・11月18日(火)

開催場所 古代出雲歴史博物館 特別展示室

開館時間 10月は9:00～18:00 11月は9:00～17:00

10月10日(金)企画展は開会式のため10:00開場となります。

主 催 島根県立古代出雲歴史博物館・島根県古代文化センター

特別協力 浮浪山鰐淵寺



秋は紅葉の名所として有名な山陰屈指の天台宗の霊場「出雲国浮浪山鰐淵寺」。

この寺院の平安時代・鎌倉時代から江戸時代までの歴史を、同寺に伝わる寺宝をはじめ関係する文化財を通して紹介します。

これらの時代の出雲における仏教文化の姿と、地域の有力寺院としての鰐淵寺の動きや役割についてご覧いただけます。

【プロローグ】

鰐淵寺の文化財で、最も古い壬辰年（西暦692年）の銘を持つ銅造観音菩薩立像を紹介し、古代出雲における観音菩薩への信仰に思いを馳せます。

【1. 山岳仏教修行の場 鰐淵山の成立－平安時代－】

平安時代の鰐淵山が蔵王信仰・法華経信仰の伝播、修行僧の往来によってできた多様な仏教修行の場でした。

- (1) 聖の修行場
- (2) 蔵王信仰の伝播
- (3) 法華経信仰の伝播
- (4) 神は仏の教えにより威光を増す



(重文)銅造観音菩薩立像 鰐淵寺蔵

【2. 天台寺院勢力 鰐淵寺－鎌倉時代－】

鎌倉時代初めに比叡山の末寺に入った鰐淵寺は、山陰屈指の天台寺院として出雲大社とも関係を持ちながら、仏教研鑽の場であると同時に地域宗教勢力として重要な位置を占めました。

- (1) 出雲第一の天台寺院
- (2) 出雲大社との関係
トピック：修行僧の活躍（鰐淵寺で修行した浄土宗の名僧然阿良忠）
- (3) 仏教の世界観・国土観と縁起



木造不動明王立像 鰐淵寺蔵

【3. 鰐淵寺と諸権力の盛衰－南北朝・室町・戦国時代－】

南北朝時代から戦国時代、鰐淵寺が、盛衰を繰り返す南朝方・北朝方・室町幕府、尼子氏・毛利氏など、さまざまな政治勢力と関係を適宜とり結びながら動乱をくぐり抜け、有力寺院としての地位を守り続けました。

- (1) 南北朝動乱と南北両院
- (2) 京極氏・尼子氏の時代
- (3) 毛利氏と和田坊榮芸

【エピローグ 鰐淵寺領三〇〇石－江戸時代－】

二百六十年余にわたって、寺の周辺を中心に、出雲西部に寺領三〇〇石を維持して存続しました。



木造牛頭天王坐像 鰐淵寺蔵

企画展みどころ紹介

鎌倉時代の鰐淵寺は、国富荘を中心に領地を形成し、山内には南院・北院というふたつのセクションを擁して山陰屈指の天台寺院として確立しました。

また、鰐淵寺は、出雲守護佐々木氏から堂・塔の再建の支援をうけ、守護の支配が立ち入らない権利（守護使不入）を得るなど、地域の天台寺院として大きな力を持っていました。

比叡山無動寺むどうじから出された古文書や、守護佐々木氏が堂塔再建の支援を申し出た古文書、そして、当館で保存している平安時代末期の銅鐘（重要文化財）など、日頃、目にする機会のない資料や作品を展示します。

出雲国第一の天台寺院となった鰐淵寺は、至近にあった出雲国一宮出雲大社とも深い関係をもち、寺僧らは三月会さんがつえをはじめとした大社の毎年恒例の年中行事はもとより数十年に一度の遷宮儀式にも参画しました。寺に残された牛頭天王坐像ごすてんのうざそうは、当時の杵築大社主祭神である素戔鳴尊であるとも言われています。



(重文)銅鐘 鰐淵寺蔵

企画展関連講座

■関連講座

平成26年10月25日(土) 13:30~15:00

講師：長谷川裕峰氏（叡山学院）

演題：「中世における鰐淵寺と比叡山延暦寺との交流」

■関連講座

平成26年11月8日(土) 13:30~15:00

講師：林 文理氏（福岡市博物館）

演題：「如法経信仰と鰐淵寺－法華経信仰の拡がり－」

【関連講座共通】

各定員：100名 無料（要申込） 場所：古代出雲歴史博物館 講義室

申込方法：電話、FAX、ホームページのイベント参加フォームのいずれかでお申込ください。

企画展ギャラリー・トーク

(1) 美術系トーク：担当 的野克之 学芸部長

仏像・仏画・仏具などの美術品を中心に鰐淵寺や山陰の仏教文化の特徴を説明します。

10月26日(日)、11月16日(日)

(2) 歴史系トーク：担当 佐伯徳哉 専門学芸員

古文書や肖像画などを中心に鰐淵寺とそれを取りまく歴史について語ります。

10月18日(土)、11月15日(土)

※いずれも1日2回 (10:00~11:00) (14:00~15:00)

※参加費：企画展観覧料もしくはパスポートが必要です。

企画展関連イベント

■自分で描いた仏さまで掛け軸をつくらう

10月19日(日) 10:00~16:00

材料費：300円 申込不要 場所：講義室

特集展「尾道松江線発掘物語」の紹介

開催期間 平成26年12月26日(金)～平成27年2月22日(日)

古代出雲歴史博物館 主任研究員 伊藤徳広

－中国横断自動車道尾道松江線発掘調査の成果－

今年度末に全線供用が開始される中国横断自動車道尾道松江線では、道路の建設に伴って、平成8年度から島根県埋蔵文化財調査センターと（公財）広島県教育事業団事務局埋蔵文化財調査室が島根広島両県の遺跡を数多く発掘調査しました。

発掘調査の成果から、古くは中国地方を広く活動の場とした旧石器時代、近畿地方の勢力との強い繋がりが確認できる古墳時代、各地に山城が数多く造られた中世などの遺跡が多数発見されています。

本展覧会では、これらの遺跡から出土した品々を中心に、古くから中国山地を介して行われてきた島根県と広島県との交流の歴史を広く紹介します。



製鉄道具など（島根県：鉄穴内遺跡）



斜縁神獸鏡（島根県：上野1号墳）



短甲（広島県：曲2号古墳）



古墳全景（広島県：宮の本24号古墳）

企画展「入り海の記憶」の紹介

開催期間 平成27年3月27日(金)～5月17日(日)

古代出雲歴史博物館 学芸員 吉永壮志

出雲を代表する景観の一つである宍道湖が、中海とともに、国際的に重要な湿地としてラムサール条約に登録された平成17年から間もなく10年を迎えます。

その宍道湖や中海は、淡水と海水がまじる「入海」として『出雲国風土記』にみえ、古来、多くの「水の恵み」を私たちにもたらしてくれています。

また、このような入り海は、日本海側に多く分布し、古代から中世にかけて、津や泊といった湊、つまり、内水面交通の拠点として大きな役割を果たしていましたが、近世以降、新田開発や洪水対策などにより、多くの入り海は埋め立てられていきました。

本展では、出雲・伯耆といった山陰地域や加賀・越後といった北陸地域を中心に、古代から現代にかけての入り海の歩みを、考古資料や歴史資料、絵図や民具などの豊富な資料を通じて、紹介いたします。本展が、失われつつある入り海を「記憶」として呼び起こす契機になれば幸いです。



中世の東郷湖とその周辺が描かれた
「伯耆国河村郡東郷庄之図（模本）」
(東京大学史料編纂所蔵)

ボランティア活動

当館を支える組織の一つにNPO法人古代出雲歴博ボランティアスタッフの会があります。本会は歴博開館当初から活動しています。現在は約70名が所属し、主に常設展示室でガイドを行う「展示班」と、古代体験や各種イベントを補助する「普及班」、外国語ガイドを行う「外国語班」に分けられます。

また、歴博の入り口を季節の植物で飾る「お花のボランティア」活動も行われ、入館される前に皆さんの注目を集めています。

さて、ここで紹介するのは、8月よりミュージアムショップにて販売を始めた「藍染め製品」です。この藍染めは、当館の体験工房に設置されている藍甕を利用し、ボランティアスタッフがハンカチなどを丁寧に染めたものです。専門の職人が染めたものではありませんが、飽きないデザインに仕上がっています。

お手頃な価格で提供しておりますので、皆さん、ぜひ当館のボランティアスタッフが染めた藍染め製品をご覧くださいと思います。



藍染ハンカチ



[学芸員通信]

博物館実習が行われました

8月20日から、例年実施している博物館実習が行われました。今年度は15名の大学生の皆さんが一生懸命実習を行いました。

今年度は、地元島根大学を中心に、県外に在住する島根県出身の大学生が集まりました。皆さん最初は緊張していましたが、すぐに打ち解け、楽しい実習となりました。

実習のカリキュラムは多岐にわたりますが、当館では人と接するときの姿勢や挨拶の基本となる接遇研修も実施します。普段よりさらに姿勢を正すことに慣れないうちは背中や腰が疲れます。実習生の皆さんには普段から正しい姿勢を身につけてもらいたいと思います。

この他にも、掛軸や巻物の取り扱い方、土器の梱包などの実技実習以外に、現代の博物館が抱える課題や広報の方法などの講義もありました。様々な講義や実技実習を行った後に3つの班にわかれて模擬展示を行いました。

企画書の作成に始まり、ポスターの印刷と資料の展示まで行うのですが、時間も少ない中で各班相談して、個性あふれる展示が完成しました。最後に学芸員による講評もあり、大学の授業では経験することができない学芸員の職務に直接触れていただきました。この中から何人の学芸員が生まれるか大変楽しみです。今回の実習で得た経験は色々な場面で生かされるでしょう。皆さんの今後の活躍に期待しています。



朝山大田道路発掘調査速報

埋蔵文化財調査センターでは、今年度も引き続き大田市内で一般国道9号（朝山大田道路）建設予定地内の遺跡の発掘調査を実施しています。

今年度は6月から発掘調査を開始し、これまでに3遺跡の発掘調査が完了しました。旧波根湖の南岸に位置する神谷遺跡^{かんだに}では、石見地方で初めて古代の横口付炭窯が確認されました。神谷遺跡に隣接する涼見E遺跡^{すずみ}では、古墳群の一部を調査しました。また、波根川流域では、旭山城跡の南側向かいに位置する高原遺跡^{たかほら}で、中世から近世の建物の柱穴や石塔が見つかりました。



神谷遺跡（大田市久手町）
急斜面に長さ6～9mの炭窯が4基造られていました。
7月19日に開催した現地説明会には、72名の参加がありました。



高原遺跡（大田市波根町）
旭山城跡の向かいの丘陵上でおよそ3m四方の基壇が確認され、中世の石塔の部材が多数見つかりました。

朝山大田道路の発掘調査は今後佳境を迎えます。旧波根湖の南岸にある標高約70mの丘陵一帯に位置する大西大師山遺跡^{おおにしだいしやま}では、これまでに古墳時代の横穴墓群や近世以降の大規模な採石跡が見つかっています。

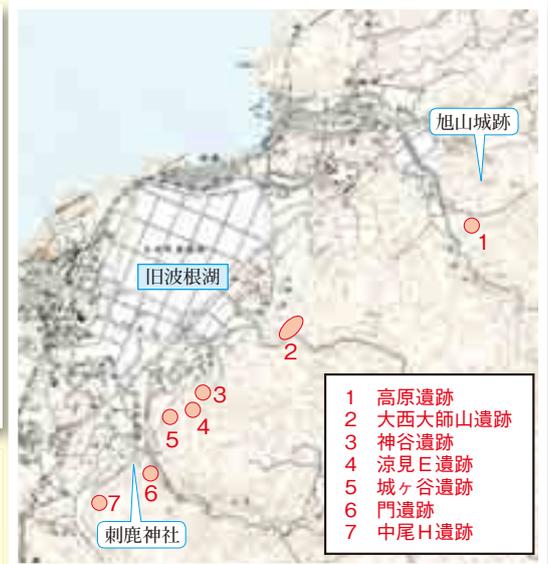
また、刺鹿神社のある谷の周辺では城ヶ谷遺跡、門遺跡、中尾H遺跡の発掘調査を実施中です。このうち、城ヶ谷遺跡では近世以降石見地方を代表する産業となった施釉瓦の窯跡の発掘調査を行います。広大な分布域が知られる施釉瓦の窯跡の中でも最も東側に位置する遺跡の調査として注目されます。



大西大師山遺跡（大田市久手町）
標高約70mの丘陵頂部に凝灰岩が露出しており、そこに古墳時代の横穴墓が掘られています。近世以降の採石によって大きく削られた横穴墓も見つかっています。採石跡の壁面には工具の痕がびっしりと残されています。



大西大師山遺跡の採石の跡



平成26年度調査遺跡の位置

なお、発掘調査中の遺跡には、深い穴や急傾斜地など危険な場所がありますので、見学を希望される場合は事前に下記までご連絡ください。

【お問い合わせ】 島根県教育庁埋蔵文化財調査センター

TEL : 0852-36-8608 E-mail : maibun@pref.shimane.lg.jp

島根県古代文化センターの調査研究・情報発信事業について

島根県の歴史と文化の研究、その成果を情報発信してきた島根県古代文化センターも、平成4年（1992）の設置からはや20年を越え、そうした成果を県民に還元する意味も込め、昨年から情報発信に力を入れ新しい事業を展開しています。

第一には、島根・奈良・三重・宮崎の四県が連携して、日本の古代文化を広く紹介した書籍を表彰する古代歴史文化賞を創設しました。昨年の大賞には都出比呂志氏の『古代国家はいつ成立したか』（岩波書店）が選ばれ、ほかに参加四県と関係の深い四作品も各県賞に選ばれました（下表）。いずれも、わかりやすく、より深く古代文化を紹介した書籍ですので、機会がありましたら皆様もぜひ手にとって御覧になってください。

昨年の2013年は、『出雲国風土記』をはじめとする風土記編纂が命令されて1300年目に当たる年となりました。古代文化センターでも、『出雲国風土記』については開設当初より調査研究を進めてきましたが、このたび『解説 出雲国風土記』を刊行しました。この本では、『出雲国風土記』の本文を全文現代語訳したほか、そこに登場する様々な場所について現代の地図に落としした風土記の地図を掲載し、約130の項目について解説を加えています。

第1回 古代歴史文化賞 受賞作品			
	著者名	書名	出版社
大賞	都出比呂志	古代国家はいつ成立したか	岩波書店
しまね賞	関和彦	古代に行った男ありけり	今井出版
なら賞	近江俊秀	道が語る日本古代史	朝日新聞出版
みえ賞	斎藤英喜	古事記はいかに読まれてきたか	吉川弘文館
みやぎ賞	三浦佑之	古事記を読みなおす	筑摩書房

また、昨年度からは松江・東京・大阪でも古代文化に関わる各種の連続講座を実施してきましたが、これらの講演の内容を収録した記録集『古代出雲ゼミナール—古代文化連続講座記録集—』も刊行しました。両書とも、書店にて販売しております。

今年も、ひきつづき松江・東京・大阪で講座やシンポジウムを開催しており、何らかの形で内容をお知らせする計画です。

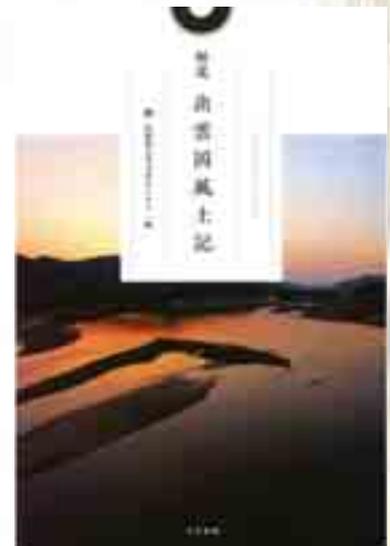
さて、これからの古代文化センターの活動ですが、まずは第2回の古代歴史文化賞の選定があります。今年からは和歌山県を加えた5県の連携により、大賞1作品、準大賞1作品の2作品を表彰する計画で、11月上旬頃に受賞作品を発表する予定です。

また、今年から、古代文化に関する共同研究事業をおこなうことになりました。これは、古代歴史文化にゆかりの深い全国の14県（島根のほか、埼玉／石川／福井／三重／兵庫／奈良／和歌山／鳥取／岡山／広島／福岡／佐賀／宮崎）が互いに連携して、各県が集積してきた考古学及び古代史の研究成果を基礎に、共同で調査研究をおこないます。これによって個々の地域的な研究だけでは見えにくかった日本の大きな古代史の流れを解明し、その成果を活かしてシンポジウムや展覧会などを開催、全国に向けてインパクトのある情報発信をおこなおうという、スケールの大きな研究事業です。

最初の研究テーマは「古墳時代の玉類」です。古墳時代の玉という、皆さんもよくご存じの勾玉・管玉などです。玉は全国的に出土しており、なおかつ王や豪族が使用した特別な装身具で、神祭りの場でも使われます。古墳時代の玉類を研究することで、当時の手工業生産や流通、玉生産をとりまとめた豪族や王など、古墳時代の社会の仕組みを知ることができると期待されています。

また、いうまでもなく、島根県の出雲部は古墳時代の玉の中心的な生産地のひとつであり、古代文化センターでも過去にテーマ研究として「古代出雲における玉作の研究」（平成17～20年度）を実施してきました。この共同研究を通して、さらに古代の玉作・島根県の古代史研究を進展させていきたいと思っています。

皆様、今後も古代文化センターの調査研究事業・情報発信事業に、どうぞご注目ください。



『解説 出雲国風土記』今井出版
税込2,000円



『古代出雲ゼミナール—古代文化連続講座記録集—』
ハーベスト出版 税込1,080円

秋のイベントのご紹介

◆加茂岩倉銅鐸発見記念日関連イベント

10月13日(月・祝)

●アテンダントお楽しみ体験

- オリジナル銅鐸ポストカード
- 銅鐸ペーパークラフト

時間：10:00～12:00 13:00～15:00

場所：エントラスホール 体験無料

●銅鐸鑄造実験

- 当館学芸員がロウを使って銅鐸の鑄造を再現します。

時間：11:00～／14:00～(各30分)

場所：エントラスホール

●レプリカの銅鐸をさわって、鳴らしてみよう！

時間：10:00～12:00 13:00～15:00

場所：エントラスホール



お知らせ

アテンダント通信

皆さんこんにちは！アテンダントの青木です。歴博では、2年前に博物館をより身近に感じていただけるよう始めた「歴博フェイスブック」を、さらに強化させるため、今回新たに「フェイスブック委員会」を立ち上げました。この委員会では、学芸員やアテンダント、事務室職員、そして館長までもが、それぞれの立場から意見を出し合って記事を書いています。展示やイベントのお知らせだけでなく、穴場スポットやおすすめ商品の紹介など、お得で、ほんとな情報をたくさんお届けしていきたいと思いますので、ちょっとした息抜きにぜひご覧ください。



ミュージアムカフェ・ショップ通信

●maru cafeです。

今回の企画展「修験の聖地 出雲国 浮浪山鰐淵寺」開催期間中、展示に関連した図柄のデザインカプチーノをご用意しております。詳細はもうしばらくお待ちください。

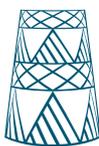
●ミュージアムショップです。

皆様、ミュージアムショップ(中央ロビー)にガチャポンが置いてあるのはご存知ですか？

仏像コレクション、歴史ミュージアム(埴輪と土偶+土器 & 青銅器)と博物館らしいマニアックなラインナップとなっていますが、けっこう人気があります。今回の企画展にあわせて関連グッズもそろえる予定です、観覧の際はショップにもお立ち寄りください。



発行/平成26年9月



島根県立古代出雲歴史博物館
Shimane Museum of Ancient Izumo

〒699-0701 島根県出雲市大社町杵築東99-4
TEL.0853-53-8600(代) FAX.0853-53-5350
URL: <http://www.izm.ed.jp> E-mail: contact@izm.ed.jp
開館時間 9:00～18:00(11月～2月は、9:00～17:00)



マスコットキャラクター
雲太くん



マスコットキャラクター
出雲ちゃん